

オルビス、富士山麓で社内ボランティアによる環境保全イベントを実施 ～5年前に植えた苗木に、鹿の食害から守るネットを設置～

ポーラ・オルビスグループのオルビス株式会社(本社:東京都品川区、社長:町田恒雄)は、2012年9月22日(土)、山梨県鳴沢村の富士山麓で、2007年に植林した苗木を鹿の食害から守るためのネットを設置する環境保全活動を実施しました。

当日はオルビス及びグループ関係者、その家族ら98名が参加し、約620本の苗木に黒い網状のネットを設置しました。



黒いネットを2人1組となり苗木の周りを囲むように設置

このたび活動を行った一带は、富士山麓の標高1,600～1,700m地点にあたり、もともとは単一樹種の人工林が広がっていましたが、2002年に病虫害の被害に遭い100haにわたり木々が大量に枯死しました。そこで公益財団法人オイスカが主催する「富士山の森づくり」プロジェクトの一環として、オルビスが2007年から2011年まで5年間に渡り約5,000本の広葉樹を植えました。苗木には付近に生息する野生の鹿の食害に遭わないよう、5年程度で土に還る性質を持った生分解性の白いプラスチックカバーを被せました。しかしそのカバーが朽ちてきた現在でも依然として鹿の食害が深刻な状況にあるため、新たに対策が必要となりました。

イベント当日はまずまずの天気恵まれ、時折晴れ間に富士山も望むなか、オルビスやポーラ・オルビスグループ関係の社内ボランティアとその家族計98名が参加し、開会式のあと、約1時間半で約620本の苗木にネットを設置しました。今後もこの「富士山の森づくり」プロジェクトで森の再生に必要なメンテナンス活動を継続支援していきます。

オルビスは1987年の創業当時より「地球に生かされている私たち」という考えのもと、事業活動において様々な環境負荷低減の取り組みを行っています。

今年4月にはオイスカ、山梨県甲州市と協働で新たに「甲州市オルビスの森」のプロジェクトがスタートしました。今後10年にわたり、地域の方々を含めた様々な人が集う里山としての再生を目指していくなど、企業活動において積極的な環境保全活動を行います。



作業の最後に参加者全員で記念撮影

【本件に関するお問い合わせ先】(株) ポーラ・オルビスホールディングス 広報・IR室

Tel 03-3563-5540 / Fax 03-3563-5543